

## 小児用肺炎球菌ワクチン(7価肺炎球菌結合型ワクチン)

肺炎球菌は、乳幼児の上気道に感染後、ときに化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症や中耳炎、副鼻腔炎など気道感染症を起こします。肺炎球菌による化膿性髄膜炎は、年間150人前後が発症していると推定されており、死亡率や後遺症例(水頭症、難聴、精神発達遅滞など)はヒブによる髄膜炎より高く、約21%が予後不良とされています。

90種類以上ある肺炎球菌血清型のうち、重症感染症から分離される頻度が高い7種類の血清型に対応するワクチンです。現在では100カ国以上の国々で使用され、小児の重症肺炎球菌感染症が激減しました。

接種後の副反応は、接種部分の腫れなど局所反応の他、一時的な発熱なども認められています。

対 象 者・・・生後2か月から5歳未満の子ども

接種回数・間隔・・・接種開始年齢によって回数が変わります。

・**開始が生後2か月から7か月未満(標準)**

初回接種:27日以上の間隔をおいて**3回接種**(生後12か月までに完了)

追加接種:初回終了後60日以上の間隔をあげ、生後12か月以上15か月未満で**1回接種**

・**開始が生後7か月から12か月未満**

初回接種:27日以上の間隔をおいて**2回接種**(生後12か月までに完了)

追加接種:初回終了後60日以上の間隔をおいて、生後12か月以降に**1回接種**

・**開始が1歳から2歳未満 60日以上の間隔をおいて2回接種**

・**開始が2歳から5歳未満 1回接種**